

社会福祉法人 東京有隣会

有隣

YURIN

2026.5

(令和8年)



東京有隣会では、令和八年四月一日付の新入職員を迎え、同日に入職式を執り行いました。有隣病院の入職者は、神経内科医師一名、看護師四名、薬剤師一名、理学療法士二名、言語聴覚士一名、臨床検査技師一名、歯科技工士一名、ケアワーカー一名の計十二名。有隣ホームの採用者は、生活相談員一名、介護支援専門員一名、事務員二名の計四名となり、併せて合計十六名の入職者を迎えることになりました。

入職式では、奥典之理事長から歓迎の言葉として、東京有隣会の101年目の新入職者を歓迎すると共に、地域の信頼と期待に応えるよう、チームの一員として活躍していただき、東京有隣会の歴史と一緒に作るよう、励ましのエールが送られました。

続いて、東京有隣会幹部や病院幹部からも歓迎の言葉を頂き、新入職者からも一人ずつ挨拶があり、爽やかな入職式を執り行うことが出来ました。

当有隣会においでの際は、しばらくの間、慣れない新入職員がおりますので、ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんが、温かく応援をいただければ幸いです。よろしくお願い申し上げます。

東京有隣会

昨年創立100周年を迎えた東京有隣会のこれから！

東京有隣会は、東京の南西部地区における福祉の基幹施設として、地域の皆様に支えられ、昨年、めでたく創立百周年を迎えることができました。私どもでは、これに満足することなく、より良い地域福祉の増進に向け、今後も全職員一丸となって取り組んで参ります。

昨今、急速な人口高齢化を背景に、福祉サービスに対する需要が高まるとともに多様化し、これまで以上にきめ細かな対応が求められています。しかしながら、福祉サービスを現場で支える人財の不足という厳しい実態に直面しており、私共では、限られた人財の能力を最大限に活かすべく、色々工夫しているところです。工夫の一例ですが、介護職等の労働生産性の向上に向け、職員間の連携を強化する取り組みを展開したり、業務改善に有効な研究発表に力を注いだりしています。こうした工夫を通して、職員同士の相互理解が深まり、「協働による福祉サービス向上」の意識が芽生えつつあり、この潮流を拡大させていきたいと考えています。

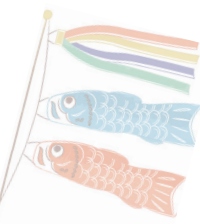
4月1日に新たな職員を採用しましたが、こうした意識を一日も早く身に着けて、多くの仲間と共に最良の福祉サービスの担い手として存分に活躍し、地域の信頼獲得に貢献することを期待しているところです。

副理事長 三枝 健二





第2有隣ホーム



【春の訪れ】

当ホームでは節分やひな祭りなどの季節行事を楽しんでいたきました。あたたかな日差しの中、ご入居者様の会話や笑顔も増え、和やかな時間が流れています。

また、満開の桜の下でお散歩を楽しむなど、皆様それぞれに穏やかな春のひとときを過ごされています。

今後もしもご入居者様に寄り添い、安心とぬくもりに満ちた日々をお届けしてまいります。

お花見会で笑顔満開



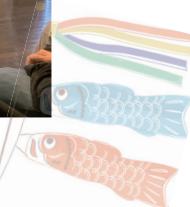
有隣ケアセンター

ケアセンターでは、三月にひなまつり、四月に桜の会を開催しました。

ひなまつりではお雛様リレーゲームや絵合わせ、桜の会では職員による寸劇や「枯れ木に花を咲かせましょう」ゲームなどを行ない、季節感のある行事に参加していただくことで身体も心も健やかに過ごしていただけるよう日々工夫しています。月1回のおやつ作りの日も好評です。

ご利用・見学のお申込み、随時受け付けております。

日頃の活動の様子は、下記QRコードからもご覧いただけます。(インスタグラム)



有隣病院

健診センター

4月1日から健診室が健診センターとして生まれ変わりました。ひろびろとゆとりある空間に、ゆったりと落ち着ける雰囲気を目指した健診センターでは、皆様に快適に健診を受けていただけるよう心がけています。健診受診者様と外来患者様との混在や接触を避けるため診療エリアとは一線を画した専用フロアになります。ほとんどの検査（レントゲン、エコー、内視鏡を除く）がセンター内で完結するため、移動や待ち時間が比較的少なく受付から会計までスムーズに受診していただけます。

■世田谷区健診のご案内

特定健診・長寿健診・特定保健指導・前立腺がん・胃がん・大腸がん・肺がん・肝炎ウィルスの各検診・骨塩定量測定を行っております。

健診日：月～金曜日・時間：午前10時～

■日帰り人間ドックのご案内

自覚症状のない病気を早期発見するために人間ドックを受けることをお勧めいたします。

曜日：第2、4、5週水曜日 毎週木曜日
時間：午前8時30分～ 半日コース：午前中

■企業健診のご案内

地域企業、事業所の従業員の方々の採用時の健診や定期健康診断等をお受けしております。



年一回は、健康診断を受けましょう。
問合せ先 有隣病院健診センター
03(3482)3611

令和8年度入職式

4月1日に今年度入職者12名が新しく仲間になりました。また、入職式後、二日間、感染対策、医療安全、メンタルヘルス、BLSなどの研修会を行いました。

健康コラム 飲酒のはなし

新年度はなにかと集まりがあり、飲酒する機会が増えます。飲酒はその伝統と文化が親しまれて来た一方で、飲み方を間違えると健康障害を及ぼします。今回は、飲酒と健康についてお話します。

【飲酒は生活習慣病のリスクを高める】

がん、高血圧、脳出血、脂質異常症などのリスクは、飲酒量が増えれば増えるほど上昇し、飲酒量が少ないほど良いことがわかっています。また死亡（すべての死因を含む）、脳梗塞、虚血性心疾患は男性では飲酒量が44g/日程度以上、女性では飲酒量が22g/日程度以上になるとリスクが高まることがわかっています

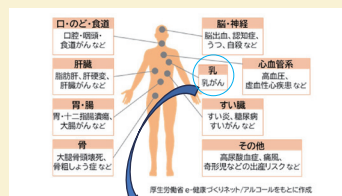
【アルコールによる臓器障害】

飲酒は肝臓だけでなくあらゆる臓器に影響を及ぼします。肥満、血圧、中性脂肪、血糖値、肝機能、尿酸値などの検査の結果は、飲酒量と関係している場合があります。またメンタルヘルスに影響を及ぼすことがわかっていきます。

【お酒を飲んだ翌日の回復】

お酒を飲んだ翌日は体がアルコールの分解で疲れていたり、脱水や栄養不足になります。水分を補い、消化に優しいものやビタミンが多く含まれる果物を食べると回復が早いです。

健診センター保健師



1日14gのアルコール量で乳がんのリスクが上がります！（女性）アルコールで乳がんのリスクも上がることに驚かれる方も多いのではないのでしょうか？



上の画像が純アルコール量20gの量です。厚生労働省では生活習慣病のリスクを高める飲酒量（1日あたりの平均純アルコール摂取量）を男性では40g以上、女性では20g以上としています。

ケアプランゆうりん（居宅介護支援事業所）事務所移転のお知らせ

ケアプランゆうりんは令和8年4月1日より有隣病院B棟1階へ移転いたしました。今後とも変わらぬご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

